

自分らしい住まいが欲しい
ありきたりでない仕事場をつくりたい
そんなあなたにA&C B

A4C B



□家庭訪問「家の中に3本の木」
□大阪R不動産 業務日誌／物件案内
□連載・ニッポンの住
・アートアンドクラフトの輪
・街だのな
・まだがなはってます！
・OSAKA WOW!!

発行日 2013年4月1日
発行人 中谷ノボル アートアンドクラフト
編集 岡崎麗 竹内厚(Re:S)
写真 パンリ
デザイン 有佐祐樹(marqmew)

制作・発行 株式会社アートアンドクラフト
550-0003 大阪市西区京町堀1-13-24-1F
電話:06-6443-1350
営業時間 10:00~18:00 水日祝休

一般建築士事務所
宅地建物取引業
建築業
古物商許可
(社)近畿地区不動産公正取引協議会会員

均質化されていない住まい
あたらしい都市居住のスタイル

Arts&Crafts

realosakaestate
大 阪 R 不 動 産

TOLA

HOSTEL 64 Osaka

編集後記

A&C B、何度めかわからないリ
ニューアルをしました！
リノベーションだけじゃない、アラ
ウンドオブA&Cな感じでいつもよ
り話題の幅を広げて。できあがって
みたら、「えっ…この会社なにして
るの？」って言われそうな仕上がりに。
そのあたりはまた次号でリトラ
イします！ 変わることと変わらない
こと。春ですね。

家庭訪問

Ｔさんの家＠大阪市

ここは淀川沿いに建つ、古いマンション群。同じマンションの同じ広さの家に賃貸で住んでいたＴさんは、同じ棟の空いた部屋を購入してリノベーションにこぎつけました。えっ!? 部屋の真ん中に木が生えてますね。

「家の中に3本の木」

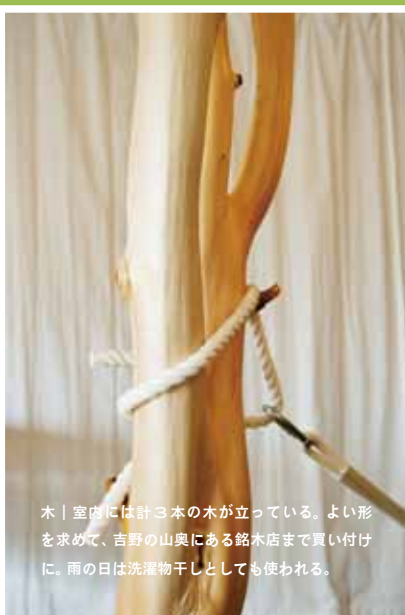


家族構成：夫、妻、長男、次男の4人家族／中古マンション（床面積74㎡ 築40年）
設計担当：合田昌宏／コーディネーター：岡崎麗



外観 | 第40年。広い敷地内には保育所や喫茶店、美容室まで。分譲時の事業主が老舗大手デベロッパーと聞いて納得。植栽、配棟計画など、すべてにおいてノビノビとしている。

ベッド | 「こんな作りしたい」と描いた子どもの絵をもとに設計、というちょっといい話。



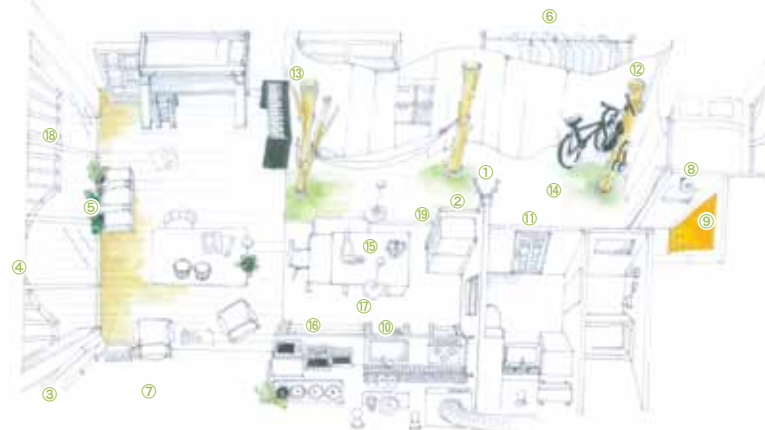
木 | 室内には計3本の木が立っている。よい形を求めて、吉野の山奥にある銘木店まで買い付けに。雨の日は洗濯物干しとしても使われる。



キッチン | モルタルのキッチンは当初からの希望。普通の家の倍ほどある大きさと、重量面の不安からすべてをモルタルにすることは断念した。合わせて作った作業台は「もっと大きくてよかったかも」と思っているそう。



Ｔさん家の間取り



①偶然手に入れたという鹿の頭骨。自己流で標準化

②家族の日常をおさめた写真を集めた一角

③若い時に旅したインドから持ち帰ったディジュリドゥ

④船首みたいな形のバルコニー。ここに座ってごはんを食べることも

⑤サボテンと多肉系の植物コーナー。日当たりが良すぎて、すごい勢いで成長

⑥IKEAの収納をカスタムしたクローゼットはＴさん作

⑦壁と天井は休日返上でＴさんが塗装した。「できることは自分でしなかったから」

⑧知人にもらったアンティーク照明を玄関灯に

⑨玄関扉の内側はオレンジ色。ル・クルーゼの鍋の色というオーダー

⑩おばあちゃんが漬けて、毎年Ｔさんの誕生日に届けてくれる梅酒の瓶

⑪もとはリビングのドア。知人のガラス作家によるスタンドグラスをはめこんだ

⑫カバンにカメラにストライダー……この木に何でも掛かっている。施工の職人さんが水筒を引っ掛けたことも

⑬この木はシンボルツリー。12月にはちゃんとクリスマスツリーにも変身

⑭カーベットはアウトドアっぽい配色。はじめはド派手すぎたかと思ったが慣れてしまった

⑮キッチンに合わせて作った作業台

⑯コンクリートブロックで作ったキッチンの脚。そこはかとなくキャンプ場っぽい

⑰ガラスの林檎にエアープランツを入れて吊るしている。いろいろ吊るしたくなる派

⑱バルコニーの端から端まで窓ガラス。誰とも目が合わないからカーテンはつけず

⑲足元にたまたま生まれたすき間に、LANやモデム、ケーブルなどを収めた隠し収納



照明 | 星座の形に電球が並ぶ。(設計担当) 合田からの提案。



床 | 船のデッキ材を使用。途中で継ぐことなく、1枚板を横並べにした見た目も斬新。



眺望 | 蛇行して広がった川幅、整備された河川敷と、数ある淀川ビュー物件の中でもバツグンの眺め。草野球やピクニックなど、いい使われ方をしている。

Tさんインタビュー

— まずは、なんで室内で「木」だったんですか。

「設計を担当してくれた合田さんが木を立てましようかって言ったから。それだけです（笑）。それにずっと住んでると見慣れてきて、もうわからなくなりました」

— その提案に抵抗感なく？

「僕たち夫婦はふたりとも制作やデザインに携わる仕事をしていることもあって、提案されることを楽しみたいと当初から思っていました。だから、僕たちのことを分かってくれての提案は楽しかった」

— A&C との設計打合せでは、まずはお互いの自己紹介のような時間を設けるようにしています。そこで見えてきたのが「キャンプ」「アウトドア」といったキーワードでした。

「10代の頃からバックパックで旅したり、家族ができてからはもっぱらテントを積んでキャンプに。週末は子供と一緒に MTB のレースに出たり、と気がついたら外でばかりすごしている家族ですね。あとは、妻が料理に関わる仕事をしているので初回はそのことなんかも話しました」

— なるほど。たしかに、外と内の距離があまり感じられない暮らしですよ。

「細かく仕切って暮らすイメージはあんまりなくて。子どもは大きくなったら出ていくし、文句を言ったら、これがうちの家や、って言います。結局、合田さんも職人さんもやったことないことばかりをするもんだから、図面では表現しきれず、現場で相談しながら作り上げてくみたいところもありました。電球を星座の形に並べたり、フローリングはやめて船のデッキ材にしましょうよとか。楽しかったですね」

— いつも繕う様子はなく自然体の暮らしだなと感じます。今（この取材中）も家族それぞれ好きなことをやってますし。

「住んでまだ 8 カ月なんですけど、そんな風に見えないですよ。計画中は細部のクオリティなんかが気になることもあったけど、でも、そんなこだわりはあんまり重要ではなくて、住み手の性格やスタイルによって、家の色や匂いができていくのだなと。どんなにイメージしても背伸びしても、良い意味で住み手の身の丈に収まっちゃう。僕もいろんな良い家、カッコいい家を本で見たり、ネットで見たりしてきたけど、ああはならないですもんね。それがリノベーションの面白さかなと今になって思っています」

A&C News

船のデッキ材を室内のフローリング代わりに使った T さん家の床面、印象的でした。ほかにも、A&C が最近手がけた事例から「外と内」の隔たりを遊んだりリノベーションをご紹介します。

◆◆◆プールのあるマンション◆◆◆ (REPORTED BY コーディネーター大村直子)

初めて訪れたときは冬だったのでプールに対する感動はあまりなくて、防火用水に使用して安心なのかなというくらいに思っていました。ところが、部屋のバルコニーからは遠く海まで見渡すことができて、しばしボンヤリと眺めてしまいました。そういえば、前の家は暗くて閉鎖的だったけど、この家は明るくて外とつながっていたことが購入の決め手だったと聞きました。ご主人がカーテンをつけたくないと言っていたのも思い出します。そして夏、プールはピカピカに

変身、リゾートホテルのバルコニーにいるみたいに。過剰な設備はいらないけど、住民が夏の来るのを楽しみにしている感じがすごく伝わってきて、いいマンションだとおもいました。だけど、Sさん、泳いだことあるのかな。



◆◆◆中庭を囲う縁側◆◆◆ (REPORTED BY コーディネーター小野達哉)

この中庭、空き家として放置されていたので密林になってました。木も病気にかかっていたみたいで、見るからに不健康な感じ。でも、見上げると空が近くて、樹々のすき間から縁側に、わずかながらもしっかりと日光が差し込んでいるのを見て、「あ、これは化けるな」と。やったことは極めてシンプル。大工さんに頼んでバサバサ伐採したのと、不要な石をどかしたぐらい。私、今、築古のビルに住んでいるんですが、庭どころかバルコニーすらなくて、植物に水をやるのも一苦勞。庭があればそんな気苦労はないし、自分ならすだれをかけたり、柿のような実のなる木を植えたり、ライトアップしちゃったり。妄想し出すと止まりませんね。



中土喜博の
大阪R不動産業務日誌

2月〇日

15:00 中津の物件案内

午後3時から中津の倉庫物件「倉庫 0n 倉庫」を案内する中で、鞆公園のすぐ横にある事務所を出てなにわ筋をひたすら北に自転車をこいでいく。僕はいつも相棒の自転車「フローレン」で、オモシロ不動産を探して大阪の街を走っている。

お客さんは「倉庫を改装して住んでみたい」という方。倉庫のがらんとした空間にお客さんは終始興奮気味。気持ちはよくわかる。倉庫に住むようなハードボイルドな暮らしに僕も憧れる。

16:30 小麦色した建物と出会う

案内が終わった中津の街で、ある建物に目を奪われて立ち止まる。建物一面に貼られた小麦色のタイルが夕日に照らされていて美しい。一目惚れだった。いろんな角度から彼女(建物)を見つめた。幸運なことに「入居者募集中」という看板が貼ってある。彼女はまだフリーだ。その場で管理会社に電話して取材させてもらい、鼻歌まじりに事務所へ帰る。

2月△日

10:00 コラム作成

午前中、昨日取材した中津の物件のコラムを書く。タイトルは「小麦色の娘」。好きな人に出会った喜びを歌う詩人のように、熱い想いをこめて書いた。大阪R不動産に掲載するときは「素敵な人と出会えますように」と思う反面、「手放したくない」という複雑な気持ちになる。

14:00 物件問い合わせ

午後、サイトに掲載している「放出オアシス」に問い合わせがきたので、お客さんとメールのやり取りをして案内の日程を決める。土曜日の午前中に案内することになった。

2月◇日

10:00 ネットで物件探し

午前中、不動産業者用の物件検索サイトでおもしろそうな物件がないか探す。なんとなく川沿いの物件がいいなと思ったので、淀屋橋から北浜界隈のエリアで探していると、土佐堀川沿いにあるビルの一室を発見。ネット上で見つけた情報からわか

るのは、住所と物件の間取り図だけ。眺めはいいに違いないが、どんな建物なのかは取材に行くまでわからない。

今日はあいにく天気が悪い。物件を魅力的に紹介するには、天気がいい日に取材することも大切だ。明日取材させてもらうことにした。

2月●日

10:00 土佐堀沿いの物件取材

天気が悪くならないうちに、北浜の物件の取材に行く。住所の建物の前に着くと、通りに面した壁一面が広告だらけで少しへこむ。部屋の中もぼっとしない。しかし、部屋の窓からは中之島図書館や中央公会堂など、「大正時代」を象徴する近代建築が土佐堀川の対岸に眺められる。総合的にはやや残念なところもあるが、部屋からの眺めが素晴らしいので川が好きな人のために掲載することにした。

事務所へ帰ってコラムを書く(「とにかく川だ、川があれば他は何でもいい」)。部屋からの眺めは褒めちぎるが、建物はビミョーだと正直に書く。大阪R不動産では良いところも悪いところもお客さんに知ってもらえるように、物件を紹介するところからかかっている。

16:00 深江橋の町工場から取材の依頼

午後、深江橋にあるまだまだ現役で頑張っている町工場を間貸しするので、大阪R不動産に掲載してくれないかという依頼がきた。ときどき、こんなふうに取材の依頼がくるので、おもしろそうな物件の匂いがしたら取材に行く。

2月▲日

11:00 「放出オアシス」物件案内

朝、相棒のフローレンに乗って放出へ向かう。本町通をひたすら東へ進んでいく。大阪城が見えてくるとより坂になってきて、ちょっとしんどい。長い道のりだったけど、なんとか5分前について息を整えて案内に挑む。営業トークはあまり湧きなかったが、物件が良かったのでお客さんはとても気に入ってくれた。

12:00 深江橋の町工場の取材

深江橋の町工場の持ち主は僕よりふたまわりぐらい年上の男性だったが、その人のお父さんが使っていた道具があったり、昭和の町工場の歴史を感じる物件でワクワクした。だけど、町工場の持ち主の人が、ぼつりぼつりと「コスト削減」の時代を小さな町工場が生き残ることの厳しさを語りはじめた。安ければ何でもいいのか。物の本当の価値は何なのかと考えさせられた。

事務所へ帰って、現役でがんばっている町工場の物件をどんな人が借りてくれたら活かされるのかと想像しながら、「まだまだ現役でっせ！」という物件のコラムを書いた。やっぱり、いい物件にはいい人に借りて欲しい。その人に届くようなコラムを書きたい。

物件案内 小麦色の娘

RENT

昭和レトロ 町工場 戸建/一棟
改装OK 屋上/バルコニー



◆小麦色のタイルが圧倒的な存在感を出しています

この物件、「現状渡しで改装OK」。外見は素敵だけど、中はほぼスケルトン状態で色気が無いのであなた好みに改装しちゃってください。(※原状回復の範囲は要相談)
4階まであるのでガッツリ初期投資してクリエイティブなワークスペースや住居をつくりたい方にオススメです。

所在地：大阪市北区中津3丁目

賃料：31万5000円(共益費含む)

面積：208.94平米

最寄駅：阪急「中津駅」徒歩4分

地下鉄御堂筋線「中津駅」徒歩9分

敷金30万円/礼金60万円

建築構造：鉄骨造4階建1棟

取引態様：仲介

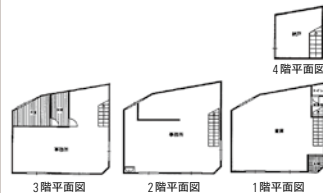
築年：1976年

設備：電気、上下水道、都市ガス、トイレ(和式)、流し台

お問い合わせは

大阪R不動産サイトの同名物件の問合せフォームからお願いします。

www.realosakaestate.jp



◆1階は天井高3.2mで広々としています。

◆水回りは改装が必要です。

備考

*各階面積 1F: 65.39平米、2F: 65.39平米、3F: 65.39平米、4F: 12.77平米

*指定火災保険必須

*10年の定期借家契約(1年経過後なら、3ヶ月前予告で解約可)

*普通賃貸借契約でも可(賃料:525,000円 礼金:賃料2ヶ月分 敷金:賃料1ヶ月分)

大阪R不動産で紹介する物件は決してバランスが取れているわけではないけれど、ある部分が突出して魅力的！そこにハマるのを待っています。なおサイトでは、日々物件を更新中！



中土喜博

大阪R不動産の新人スタッフです。沖縄っぽい顔をしています、生まれも育ちも大阪です。
ニックネームは「ちゅら」。相棒の「フローレン」に乗って大阪の街を西へ東へ走っています。

電気自動車は排ガスを出さない
ので、家の中に置くことも
できるんですよ。初めてそのこ
とを聞いたとき、あたらしいライ
フスタイルが始まりそうだと
、ちょっぴり興奮した。とい
うのも、前々から人と乗り物と
住まいの関係がもっと楽しくな
らないかと考えていたから。歴
史上、人々は長距離の移動を馬
に頼ってきた。ここ百年ほどは
それが車にとって代わったが、
ウマもクルマも住まいの中で人
と同居することはなかった。し
かし、排ガスが出ないのなら将
来はリビングルームに車がある
風景がフツーになるかもしれ
ない。いっそ、ソファセットその
ものが車に変身することも可能
だ。外出時はオープンなリビング
カー、雨が降れば屋根が掛か
る。近い将来、車は家具屋や住
宅メーカーで売られているかも
しれないぞと。

いったい何が言いたいのかと
いうと、ひとつの技術革新が暮
らしを大きく変え、住まいのカ

チまで一変させることもあると
いうこと。TV もそのひとつ。
一般家庭に普及して4、50
年になるが、人々の暮らしは
TV で大きく変わり、居間の
スタイルまで変化した。その
TV があらためて変革の時期
を迎えている。いまやTV は
SKYPE のテレビ電話機でも
あるし、ゲーム機やパソコンで
もある。逆にこれまでTV で
見ていた映画や番組は、スマホ
やタブレットにダウンロードし
て、外出先でも見られるよう
になった。いよいよTV の画面
が無くなり、映像が空間に映し
だされるようにでもなれば、も
うTV の置き場所なんてどこ
でも構わないし、TV という
概念そのものがなくなるかも
しれない。それにともない、住
まいのカたちも大きく変わって
ゆくに違いない。

さて、リノベーションの仕事
をしているからか、古いものが
好きなんですよと言われるこ
とが多い。が、実際はSF フリー



中谷ノボル：一般建築士、アートアンドクラフト代表。建築と不動産と旅が
仕事のフィールド。海に沈む夕陽を好むため、訪れる街は西側の海岸ばかり。
現在、同社の沖縄事務所に赴任中。

クだ。よって、未来を感じる
超高層ビルもありだと思ってい
る。人類が初めて鳥目線で大空
を感じながら暮らせるタワーマ
ンションは、現代のツリーハウ
スかもしれない。しかし現実
は、遠くは見えるが開放感がない、
閉塞したものばかり。せつかく
天まで届く建築を建てる技術
を得たのに、まだまだ大空を活
かしてないのは残念だ。技術革
新を素直に捉えて応用し、技術
を本末転倒させることなく使
いこなし、住宅はますます発展
して欲しい。そして、自分も



そういう建築家でありたい。
これまで倉庫や、工場の2階
や、キャンピングカーなどに暮
らしたりしてきた。いまは店舗
用の区画にシャワーブースを置
いて暮らしている。なにも好ん
でそんなところに住んでいるの
ではなく、毎回それなりの事情
があるのだが、そこでの暮らし
から次の住まいのヒントが見つ
かることもある。ちょっと視点
を変え、あたらしい技術を応用
することで、これまでの常識を
打ち破るような住まいが、ま
だまだ考えられるかもしれない。
いわゆる住まいのブレイクス
ルー。そんなのを死ぬまでに
発表してみたい。変なところ
に住んでるヤツ。SF 好きの
変わり者。そう思われることも
あるかもしれないが、「実はマ
ジメに家のこと考えてるんす
よー！」と、ここで声高に弁
明しておこう。

art work : 加納俊輔 「layer of my labor_01」 2011

1983年大阪生まれ。主に写真をつかって、様々なかけ離れたイメージや立体物と掛け合わせる手法で制作。
見ているものを捉え直す試みとしての作品。＊ <http://www.kanoshunsuke.net>

アートアンドクラフトの輪

いいね！友達になりたい！と、A&Cが勝手に共感した人たちを訪ねます。

001 ログズギャラリーの農民車



既成の中古パーツ、自作パーツを組み合わせたパワフルな車が淡路島を走り回ってって、知ってました？ 現代の車社会のすき間で、勝手に花開いた独自の改造車両文化。「農民車」と呼ばれるその世界に急接近、オリジナルの農民車まで作りあげたアートユニット・ログズギャラリーの2人に会ってきた。

— そもそも車って自作できるんですね。

中瀬由央「ほんと、そこに僕も驚きました。しかも、町の鉄工所で改造していたり、中古の農民車まで売ってるんです」

浜地靖彦「家の前が狭い農道だったりすると、既存の車の軸を切って縮めたりするんですって」

— 自由すぎる発想ですね！

中瀬「淡路島では車が壊れたから捨てる、じゃなくて、壊れたなら農民車に使うってノリなんです。僕らサイバーパンク世代なんで、向こうから農民車が走ってきたら、マッドマックスの車に乗るようにしか見えない」

浜地「まずは、車を自分でつくって走らせるというところ。その次に農民車についているいろんな機能に惹きつけられました。荷台がリフトアップする車を見た時には、ウワッと盛り上がりましたね」

中瀬「玉ねぎ小屋の梁の部分に玉ねぎを吊るす作業をするための機能だそうです。これがあるにカッコよくて、自分たちでもつくってみよう！」と」

— でも、車を作した経験なんて今まで…。

中瀬「全然ない。まったくの素人なんで、じゃあ、スズキのジムニーをフレームにしたらいいよとかアドバイスを受けながら。エンジンはトラクターのものを転用してることが多いので、それはヤフオクで手に入れて。昔のプロペラ機みたいに手回しのエンジンの音が、圧倒的にカッコイイんですよ」

浜地「最初はほんとに溶接の練習からはじめて、並行して、淡路島でいろんな農民車を取材しました」

— で、とにかく走って止まる、荷台が持ち上がるログズの農民車がなんとか完成したと。次どうしますか。

浜地「さらに取材は進めていきたいし、もっと単純に作れるんじゃないかという思いもあります」

中瀬「溶接なしでも組み上げられるくらいの車の提案とかね。これは憧れですけど、淡路の農民車が一同に集まる農民車ショーをやりたい。『うちのはそんなええもんちゃう』とか言いながら、皆さん勝負に出てください」

浜地「取材でも写真撮らせてくださいって改めて行くと、きれいに椅子が貼り替えられてたりしましたから」

中瀬「ただの道具だって言いつつ、絶対にただの道具じゃない。そこがいいんです」

ROGUES' GALLERY ログズギャラリー

1993年結成。浜地靖彦と中瀬由央によるアーティストユニット。車の走行音を高出力で車内にフィードバックした走る音響作品「ガソリンミュージック&クルージング」で日本横断。「農民車製作プロジェクト」は広島市現代美術館での特別展に出品された(2013.1.26〜4.7)。



右：淡路島でリサーチしたさまざまな農民車
上：ログズギャラリーが自作した農民車

世界中から旅人が集う西区新町の宿、HOSTEL 64 OSAKA (ホステルロクヨン)。
「大阪スゲー！ビックリしたよ」。フロント係が耳にした、街で外国人ゲストが体験した出来事とは…。

「パンケーキみたいだ
けど甘くない」「ジャ
パニーズ・ピザとも言
われるけど…」。毎日
のようにフロントで聞
かれる質問、「What is
Okonomi?」に一言で答
えるのは難しい。「と
にかく大阪のソルフ
ードよ、食べたらわか
る!」とお勧めのお店
を紹介して送り出
す。数時間後、ほとん
ど全員が「オコノミ、
サイコー!」と大満足
で帰ってくる。不思議
と国を問わずに受け入



HOSTEL
64 Osaka

●レトロであたらしい
デザインホテル
1泊3,300円より
<http://www.hostel64.com/>

れられるお好み焼き。味や食感の美味しさに加えて、おっちゃんやおばちゃんが焼いてくれたそれが、目の前の鉄板
まで運ばれ、専用の道具で熱々のうちに食べる、というスタイルが特別な体験になっている様子。土産にコテを買い
たいというリクエストに、迷わず道具屋筋を案内できるのが大阪の街のすごいところ。「それにしてもお好み焼きさ
ってハイカロリーだよね」って、昨晚あんた、Lサイズのピザを1人で食ってたやん!

vol.12 まだがんばってます!

建物を解体して再生するリノベーション。その現場で生き残ったモノたちが語ります。

「もしも私が家を
建てたなら 小さな
家を建てたでしょう
〜」。この歌にわたし
は出てきませんけど、
でも、きっとこの家
の窓はわたしの
はず。暖炉、庭の赤
いバラ、レース編み
をする専業主婦…日
本が同じ方向を向い
ていた頃。みんなが
同じ歌を知っていた



「出窓」

建物の外側に張り出した窓。建
築基準法の定義では、床面から
高さ45cm以上のところで張り
出したものが「出窓」で、床面積
には算入しないが、それ以下の
高さだと床面積の拡張とみなさ
れる。張り出した部分は実用よ
りも、物を飾るなど趣味や意匠
的に使われる。

頃。時代は変わっても建物は残るの。中はすっかりリノベーションされても、わたしは変わらないでここにいます。変わりゆく家族像を見つめながら。

街だのな 第9回目

今日も朝があります。
今日も昼があります。
今日も夜があります。

今日があしたになりそうになって、
あしたが今日になりました。

物語は始まったばかりだ。

今日も優しさの物語があります。
今日も肉声たちの物語があります。

チューハイの缶が道路に転がっていて、
チューハイの缶は恋人の足元を通り過ぎて行っった。

「優しさは強暴だ」と恋人は言った。

その言葉は恋人がこの街で発したものなのか、

この街が僕たちに発したものなのか、

分からなくなって、

この街の片すみで、
僕たちは野良猫に、にゃあーと声をかけた。